

報道関係各位

2015年8月12日
公益財団法人日本デザイン振興会

2015年度「東京ビジネスデザインアワード」

13 テーマを発表・デザイナーからのデザイン提案募集開始

ワックス、金属シート、磁石、塗装技術等、ものづくり企業の「技術」と「素材」のテーマが出揃う

東京都が主催し、公益財団法人日本デザイン振興会（東京都港区）が運営を担う、「東京ビジネスデザインアワード」は、東京都内のものづくり中小企業と、優れた課題解決力と提案力を併せ持つデザイナーとが協働することを目的とした企業参加型のデザイン・事業提案コンペで、本年度で4回目を迎えます。

中小企業の持つ「高い技術」や「特殊な素材」をコンペティションの「テーマ」として募集し、それらの新規用途開発を軸としたビジネス全体の「提案」をデザイナーから募り、両者が協働することで優れた事業提案の実現化を目指します。「テーマ」と「提案」の、マッチングが成功した事例については、事務局や審査委員がアドバイス（商品開発、知財戦略、デザイン契約、販路開拓）をおこない、事業化・商品化へと結び付けます。

今年も都内の企業からテーマ募集をおこない、このたび2015年度のテーマ全13件を発表し、8月12日（水）より、デザイナーからの提案応募の受付を開始しました。募集期間は8月12日から10月30日までとなります。

これまでに、マッチングした企業とデザイナーによる実現化事例も増え、実績を重ねています。2012年度テーマ賞の太洋塗料株式会社の「マスキングカラー」は、日本国内でヒット商品となり、海外にも販路を広げるといふ成功事例となりました。同コンペは、地方自治体や金融機関等からも注目が集まっており、デザイナーにとっても今後の可能性を広げるチャレンジの場として認知され、毎年数多くの方々に応募いただいています。本年度も沢山の応募を期待しています。

2015年度 東京ビジネスデザインアワード

- デザイン提案募集期間：2015年8月12日（水）～10月30日（金）
- 応募資格：中小企業との協業に意欲のある、国内在住の個人またはグループ
- 応募費用：無料（ただし提案の制作に伴う実費等は応募者をご負担ください。）
- 賞・賞金：最優秀賞（1点）賞金100万円
優秀賞（2点）賞金各20万円
テーマ賞1テーマにつき1点

■ 主催：東京都 ■ 企画・運営：公益財団法人日本デザイン振興会

■ 東京ビジネスアワード 公式サイト：www.tokyo-design.ne.jp/award

※詳細は上記公式サイト内の「募集要項」をご覧ください。

※本年度テーマ13件は次頁をご覧ください。

参考：2014年度 [テーマ賞・最優秀賞]



テーマ：光学部品製造で培った「ガラスの接合精密加工技術」
カドミ光学工業株式会社 [日野市]
提案：光学ガラスの特徴を活かした折りのための道具
三浦 秀彦、久保井 武志（クラウドデザイン）

● 一般からのお問い合わせ先： 東京ビジネスデザインアワード事務局（日本デザイン振興会 内）
担当：廣島、鈴木 電話：03-6743-3777 E-mail：tokyo-design@jdp.or.jp

● 報道関係のお問い合わせ先： 株式会社オズマピーアール
担当：松林、石塚、鈴木 電話：03-4531-0214 E-mail：jdp@ozma.co.jp

各テーマの詳細は、東京ビジネスデザインアワードのオフィシャルサイトをご覧ください。http://www.tokyo-design.ne.jp/award.html

【キャンドルに使用されてきた変幻自在の「ワックス」を使用した新しい癒しと安らぎの提案】

1 キャンドルの製造で培った“ワックス成形技術” 佐藤油脂工業株式会社(足立区)



佐藤油脂工業株式会社は、100色以上の着色、10種類以上の香りで、長さ10mmから350mm程度のろうそく成形、製造が可能。ワックス材料、生産はすべて国内でおこなうことにこだわりを持ち、「灯す」「明かり」以外に「癒す」「あたためる」効果のあるキャンドルで、忙しい人々に安らぎと癒しを提供している。今回は“キャンドルのワックス成形技術”+“デザイン”=“新しい癒し&安らぎ”を目指したい。

【手作りの風合いの微細な文字や図柄を表現できて、大量制作も可能な唯一の金属ステッカー】

2 箔押し技術を使った“やわらかメタルシート” 株式会社村田金箔(文京区)



箔押しはアルミ蒸着でできた金・銀箔を様々な材質に転写する技術で、一般的な印刷とは違い光沢を持たせることが可能なため、箔押し後の素材は豪華で華麗なものへと仕上がる。今回、長年培った箔押し技術を用いた版作りにより、錫等の金属表面に微細な文字や図柄を表現することが可能となった。金属であるにも関わらず曲げたり折ったり、もとに戻すことも可能なため汎用性は広い。

【高温・多湿環境下での使用に耐えて、色彩表現・形状等、デザインの自由度の高い「見せる磁石」】

3 永久磁石をシリコンで包み込む“シリコンラバーマグネット” 株式会社マグエバー(渋谷区)



永久磁石の全面をシリコンゴムで隙間なく包み込むことで、磁石が錆びることもなく、割れることもない。また、取り付けの時の衝撃を軽減することができ、吸着面の傷も防ぐことが可能となった。さらにゴムの摩擦力により吸着力も向上。今回は色彩・形状・デザイン性の自由度を活かし、新しい分野での用途も視野に入れ開発を進めていきたい。

【「金型手鑄造成形法」と錫合金「エテナ」で銀製品のような輝きを持つ錫器に】

4 錫合金エテナを用いた“鏡面仕上げと凸模様の表現技術” 株式会社アートランド(荒川区)



株式会社アートランドでは300年間錫器の製造法として使用されていたものとは別の「金型手鑄造成形法」を考案。さらに錫合金「エテナ」を東京都立産業技術センターと共同開発し、錫製品を鏡面に仕上げることができた。従来、錫器を鏡面仕上げに模様を鮮明に浮き出させることはできなかったが、鏡面に対し綺麗な凸模様を表現することに成功した。完成した錫器は銀製品のような輝きを持つ。

【既存のプリント技術では実現できなかった高精細のデザインが可能に】

5 高輝度反射材を使った“高精細レーザープリント技術” 八欧産業株式会社(杉並区)



既存のプリント技術では、製版や刃型が必要で文字やロゴなど大きいものしか表現できなかったが、高精細レーザープリント技術により今までは表現できなかった細かく複雑でシャープなカットを実現した。カット線の太さは約0.4mmで、線画の表現の他、150~200dpi程度の繊細な画像の表現も可能。高精細なプリント表現と高輝度反射材を融合することで今までの枠組みを超えた新しい使用方法、有効性を表現していきたい。

【冊子本来のデザインを活かし、穴をあけずに収納可能なアイレット中綴じの新しい使い道】

6 製本と針金加工を組み合わせた“アイレット中綴じ技術” 株式会社ウキマ(板橋区)



アイレット中綴じとは、冊子の製本時によく使用されている中綴じに吊るす機能を加えたもので、針金をΩ型にする製本方法。専用の針金加工の装置を中綴じ機に取り付けることで、通常の生産ラインでアイレット中綴じを施せる。針金を打つ間隔を調整することで、1冊の冊子に複数アイレット中綴じを施すことも可能。バインダーに通すための穴をあけずに済み、絵柄・文字などが欠落することもなく、冊子本来のデザインを活かすことも可能。

【どんな素材、形状に対しても光沢のある銀メッキ処理が行える塗装技術】

7 素材を選ばず光沢あるメッキ面を形成する“銀鏡塗装技術” 株式会社アルファ・レシオ(昭島市)



銀鏡塗装技術は全ての工程をスプレーガンで行い、通常塗装では表現できない光沢のあるメッキ面を形成する。意匠性を向上させることに特化した塗装技術。対応素材は専用の下地を塗布できること、50℃以下で素材が変形・溶解しないこと。この2点が満たせば、どのような素材、形状に対しても銀メッキ処理が行える。発泡スチロール、金属、プラスチック、3Dプリンタ出力物、木、ガラス、カーボンなどの素材にもメッキ処理ができ、色彩表現も多彩。

【多種多様な金属素材を精密に加工できる職人技の技術】

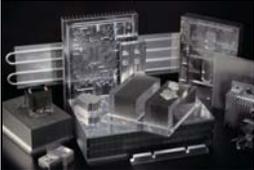
8 油圧部品の製造で培った“丸棒精密機械加工技術” 株式会社大和精機製作所(武蔵村山市)



60年にわたる油圧部品の製造により培ってきた、金属の丸材加工に特化した精密加工技術。加工する材質は鉄、ステンレス、アルミ、チタン、チタン合金など多種多様なものが可能。材料調達から加工、メッキなど全ての工程を請け負え、1個からでもオーダーメイド品の加工をおこなえるため、世界に一つだけのオリジナリティ溢れる製品制作を目指す。

【放熱特製と美しさを兼ね備えたヒートシンクで電子部品半導体に機能美を】

9 スプリングバック方式を利用してカシメる“アルミの精密加工技術” 株式会社丸三電機(千代田区)



産業機器用ヒートシンク製造ではとてつもない要領で押出成形したアルミを精密機械加工する方法が一般的である。しかし、製作できる品物の大きさに限りがある。株式会社丸三電機では押し出し成型したプレートにいくつかの薄板が着いているブロック状のヒートシンクとスプリングバックといわれる、金属を曲げた時に元の形状に戻ろうとする力を利用したカシメ技術を駆使し、従来大きさの約2倍のヒートシンクを高性能低コストで製造できる。

【見た目の美しさや面白さを活かす新しい「ばね」のデザイン】

10 精密バネ製造で培った“ワイヤー加工技術” 東栄バネ株式会社(中央区)



電子機器、医療機器などに使用される線径の細い細精密ばねの製造で培ってきた技術。材料は、ステンレス、鉄、銅合金、プラチナなどの金属線を使用した加工を得意とする。線径φ0.035mm～φ4.0mm程度の加工が可能で、螺旋状に巻かれた一般的な圧縮コイルばねと呼ばれる円筒型のばねの他にも、三角形、四角形など、多角形のユニークな形状のばねを製作することができる。

【パイプを使った独創的なデザインの製品で新しい可能性を拓く】

11 曲げ、穴あけ、溶接、塗装まで一貫生産の“パイプ曲げ技術と板金加工技術” 筑波鉄工株式会社(大田区)



筑波鉄工株式会社は60年以上培った技術により鉄、銅、ステンレスなど様々な金属素材をφ15mm～φ114.3mmまで切断、曲げ加工、溶接、塗装まで一貫して請け負える。また、パイプに穴をあけたり、Rカット、斜め切断加工、形状もひねりの工程を入れる事で、三次元に曲げる事も可能となり、多様なニーズに合った製品を曲げと溶接技術で作り出すことができる。

【壊さず、泡立てず、沈まず 容器の形状問わず均一に混ぜられる画期的な液体攪拌機】

12 羽がないのに攪拌できる“遠心式攪拌技術” 株式会社IPMS(港区)



液体を攪拌する際、従来プロペラやブレード型のを水中に沈め水を押すことにより、水流を起しかき回してきたが、液体だけではなく中の物質もカットするように高速回転することで泡立ち、物質を痛める。更にすべてを均一に混ぜることは難しいのが当然だった。しかし株式会社IPMSで開発した遠心式攪拌機「Ami」を使用すれば、容器の形状を問わず均一に混ぜることができ、泡立つこともないやわらかな攪拌が可能。つまり、「非破壊」「非発泡」「非沈降」を実現。

【スマートグリッドの広がりで見目が集まる、家電の制御ができるエネルギー管理システム】

13 デマンドレスポンス対応型の“家庭向けエネルギー管理システム” 地域エネルギー株式会社(港区)



太陽光発電は一日の中での変動が大きく、消費側の電力量をコントロールすることが求められてきた。そこで、家電を制御するシステムを実現するため「Ami」というエネルギー管理システムの開発をおこなっている。一般的なエネルギー管理システムが発電量や消費電力を表示するだけに対し、当社システムは家電の制御をおこなうことができる。デザインにより付加価値ある新しい使用方法が発見できることを期待している。

【補足資料】

● デザイナー向け提案応募説明会開催

日時：2015年9月2日(水)、3日(木) 19:00～21:00

会場：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター（東京ミッドタウン・タワー5F）

内容：応募説明、テーマ企業各社によるテーマ内容の説明

お申込みは事務局（tokyo-design@jidp.or.jp）まで

● 参考：これまでの東京ビジネスデザインアワード商品化事例

2012年度（第1回） テーマ賞

塗って剥がせる絵の具「マスキングカラー」 <http://www.maskingcolor.com>

太洋塗料株式会社（大田区）×小関隆一



2013年度（第2回） 最優秀賞

曲げパイプ技術を使った玩具「pipegram」 <http://www.pipegram.com>

武州工業株式会社(青梅市)×小関隆一



2013年度（第2回） 優秀賞

木地挽きと寄木の食器ブランド「ひきよせ」 <http://hikiyose.jp>

株式会社ラ・ルース（渋谷区）×山田佳一郎



2013年度（第2回） 優秀賞

異素材を組み合わせた、布のような新しい金網「KANAORI」 <http://kanaori.tokyo>

石川金網株式会社（荒川区）×松田 龍太郎、中西 香菜、土屋 勇太



2013年度（第2回） テーマ賞

点字印刷をインテリアに展開「Twinkle Piece」 <http://www.twinklepiece.com>

株式会社新興ブランド社（北区）×MEDIUM

